

# RAC 地域ミーティング 第 16 回川と山のぎふ 報告書

2020年2月27日(木)

於 岐阜県立森林文化アカデミー

主催: NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会

共催: 川と山のぎふ自然体験活動の集い

協賛: 岐阜県立森林文化アカデミー、森林総合教育センター

## 目 次

---

実施要項	2-3
実施記録	4-11
アンケート結果	12
後記	13

---



## RAC 地域ミーティング 中部・第 16 回川と山のぎふ実施要項

主催：NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会

共催：川と山のぎふ自然体験活動の集い

協賛：岐阜県立森林文化アカデミー、森林総合教育センター

2月27日(木)

12:00 受付開始 参加費 1,000 円

13:00～14:00

基調講演「地質が解ると山や森、川がもっと面白くなる」

塩坂幹雄 地質学者、(株)サイエンス技師長、特別上級技術者(土木学会)

地震・地盤研究者。空飛ぶ地質学者と呼ばれる現場主義者。静岡県知事とともにリニア問題で JR 東海と会議に参加。大井川の水問題や駿河湾、海岸線などライフワークも盛ん。EARTH repair という活動で地球の関係改善を目指している。

14:15～15:45 分科会は「まざりば」 テーマ「リペア」

集って混ざり合う「まざりば」は、みんながゲストでみんなが参加者です。

今年のテーマは「リペア」いろいろなものを治す処方を考えましょう。

1-1 地球をリペア「もっと知りたい地質と自然」

コーディネーター 田中謙次(一般社団法人 環境文化研究所 代表理事)

ゲストスピーカー 塩坂幹雄(株式会社サイエンス技師長)

岡佑平(芦生自然学校ディレクター)

基調講演で知った地質学のもっと深い話をします。

地質や地層など自然体験指導者の私たちがもっと知りたいことを話しましょう。

1-2 地域をリペア「地域存続のために～川と流域、山や森林の視点から～」

コーディネーター 田村 明(お客様の”こころ”研究所)

ゲストスピーカー 辻 英之(NPO 法人グリーンウッド自然体験センター)

伊藤栄一(NPO 法人森のなりわい研究所)

小澤健司((有)根尾開発)

古川昌樹((有)古川林業)

この分科会は、長野県で奇跡の村を実現されている辻さん。岐阜県木の国・山の国県民会議委員で林業界に幅広い見識がある伊藤栄一さん。約 40 年前から林業を生業として、近年ではオークヴィレッジとのコラボで根尾の広葉樹の有効利用など新しい取り組みチャレンジする小澤健司さん。1810 年から郡上で林業を営み、地元の美並町高砂地区の地域づくりにも尽力されている古川昌樹さん。私たちが山や森林をどう利用すべきかを考えましょう。

16:00～17:30 分科会は「まざりば」

2-1 心と体をリペア「元気な身体が元気な活動を作る」

各コーナー30 分程度のプログラムです。

いくつかのプログラムを受講することができます。

コーディネーター 北川健司(NPO 法人エヌエスネット)

・プレゼンター 長谷川吾朗(一般社団法人「国際臨床鍼灸研究会」代表)

つぼマッサージ、鍼灸、お灸

参加者や自分自身の体調管理に役立つ、ツボマッサージやお灸などのカウンセリング手法を指導いただきます。

- ・プレゼンター 高橋定佑(永昌院 副住職)  
「座禅」 会場:風の円居  
座禅と講和を聞く時間
- ・プレゼンター 高橋美奈(ストレッチスタジオ)  
簡単ストレッチで体と心のリラックス

## 2-2 自然で親子のリペア

親子で楽しむ自然体験や子どもたちの活動を通じて、親子や子どもの心をリペアする実践者の講座です。

- コーディネーター 坂本 均(ノーム環境教育事務所)
- ゲストスピーカー 原玲子(岐阜県ネイチャーゲーム協会)

ふるさとの自然の中でたっぷり遊び、ふるさとを愛する心を育む。そのお手伝いをしたい…と四半世紀前に立ち上げた「恵那山ネイチャーゲームの会」。最近仲間と木育や乳幼児と絡めたネイチャーゲーム展開中。現在、岐阜県シェアリングネイチャー協会理事長。好きなことはとことんやってみたくて、中津川えほんジャンボリー実行委員長も12年目。散歩と木登りとわらべうたと絵本が好きな還暦ばあさんです。

ゲストスピーカー大西琢也 火起師(ひおこし)、NPO 法人森の遊学舎 代表理事

TV チャンピオン初代サバイバル野人王であり、野外における「豊富な経験」や古今東西に伝わる「先住民や古老の知恵」をもとに、火起こし、家造り、野草料理、原始キャンプなど、オリジナルの教育プログラムを開発。古代から続く発火法を体得し、国際火起こしコンクール優勝など世界各地で累計3万人以上の子ども達に伝授。地域に根ざした「場づくり」や「共育」のために石徹白地区エコツーリズムと地域起こし支援隊としても奮闘中。白山信仰や集落生活ガイドも行っている。

## 2-3 道具をリペアする「自然体験の道具ちゃんとリペアしてますか」

- コーディネーター 小野 敦(NPO 法グリーンウッドワーク協会)
- ゲストスピーカー 佃 正壽(森林たくみ塾)

森と木の文化を再興するべく30年前より木工職人育成と森林環境教育に尽力。教え子は全国各地で木工職人や木工作家として活躍。アカデミーにも多くの教え子たちが教員として関わっている。ヒゲと笑顔がトレードマーク。

前半は佃さんの長年の活動からの自然体験と道具についてのお話をいただきます。後半は、ナイフや包丁など実際に手入れのレクチャーがあります。ご自分の道具をお持ちください。

## 17:30-18:00 全体会

進行 川尻秀樹(森林総合教育センター morinos)

## 18:00-19:00 大交流会 参加費 1000円(飲み物各自持参)

いずれも準備段階からのプログラムを用意しています。  
アウトドアクッキングを学びたい人はお申し込みください。  
大歓迎です。

- ・スマートBBQ 北村喜隆 (東海BBQ協会 上級BBQインストラクター)
- ・タッカシーキッチン 豚汁 河合高志(岐阜県職員)
- ・石窯ピザづくり
- ・手打ちうどん 工藤 (トヨタ白川郷自然学校)

## 19:30 情報交換会(21:00まで) コテージ棟

コテージ宿泊 1000円(先着30名)

# 実施記録

## 第1日目

### 基調講演

工学博士 塩坂邦雄先生『地質が解ると山や森・川がもっと面白くなる』

記録者：川尻 秀樹

先生は単に地質だけではなく、地質を起点に水や植物、昆虫に至る様々分野で環境アセスメントの実績がある方です。

最初にプレートテクトニクスに触れられ、プレートの中でフィリピン海プレートはエンジンを持たないこと、つまり自身で動いているわけではないことに触れ、趣味のパラグライダーで空から地上を見ると、プレートの歪によって現れる地質が良くわかると話されました。

パラグライダーで大空を飛ばば、空からリニアメント(直線的な地形)が簡単に見つけられる。地質の破碎帯も良くわかり、糸魚川静岡構想線に現れるアルカリ玄武岩と堆積岩のポイントも上空から見つけたことを話されました。

糸魚川静岡構造線に出るアルカリ玄武岩の地域は、江戸時代の東海道「鞠子の宿」付近で、トロロ汁が名物です。この地域では良質の自然薯が採れ、ワサビの名産地でもあり、ここから天城方面や長野などにワサビの苗が持ち込まれた。

この構造線沿いでは、断層による破碎帯粘土層があるため不透水層となり、標高 2500m の山の上でもアルカリ性の水がしみ出ており、その水系がワサビだけでなく貴重なヤマトイワナが生息する場所となっている。つまり川の水、水質を見極める上でも、地質は重要な決め手となるのです。

そうした目で岐阜県の地質を見ると、また様々なものが見えてくる。長良川沿いの地質(岩石)は堆積岩の一つであるチャートが主流であり、そのチャートは二酸化ケイ素( $\text{SiO}_2$ 、石英)が主成分となっている。チャートには赤色、緑色、淡緑灰色、淡青灰色、灰色、黒色などの色がある。

美濃市の長良川では堆積岩のチャートや砂岩、泥岩が、そして火成岩の花崗岩や流紋岩、また変成岩の緑色岩などが見られるが、特に赤色系のチャートが長良川の特徴的チャートと言える。

最近では砂漠地などでも利用できる、『セダムによる屋上緑化』にも取り組んでいる。セダムとは多肉植物で、通常の植物体による屋上緑化では 200mm 程の土壌が無いと緑化できないが、セダムは 5mm あれば良い。

東京では 1  $\text{m}^2$  の屋上緑化に 25,000 円の補助が出る。セダムは 3 年で密植して他の植物が入れなくなるが、同時に込み過ぎると枯れ始めるため、新たに植えなおす必要がでる。

このほか、人工林の三角形に伐採しブナを植林する提案や、地下ダムについても説明されるなど、時間な足りなくなるほど、川や山を考える様々な学びがありました。



## 分科会 1-1 「地球をリペア」

記録者：田中 謙次

### ゲスト紹介

・株式会社サイエンス 技師長 工学博士 塩坂 邦雄氏

地震・地盤研究者。空飛ぶ地質学者と呼ばれる現場主義者。静岡県知事とともにリニア問題で JR 東海と会議に参加。大井川の水問題や駿河湾、海岸線などライフワークも盛ん。「EARTH repair」という活動で地球との関係改善を目指している。

・NPO 法人芦生自然学校 ディレクター 岡 佑平氏

美山町の恵まれた自然と、その自然と向き合う中で育まれてきた山村の暮らしの文化をかけがえのない財産として、多くの人々とこれを学び、守り活かす活動を行っている。また、次世代を担う子ども達へ多くの自然体験活動の機会を提供し、持続可能な社会づくりに寄与する人材を育成している。

・一般社団法人環境文化研究所 代表理事 田中 謙次（分科会コーディネーター）

RAC トレーナーとして、近畿圏内の川の指導者育成講座を開催するとともに、子ども、大人問わず水辺の自然体験やツーリズムを開催している。一方で、水辺のあるまちづくりやランドスケープデザインに取り組んでいる。

### <分科会報告>

地質を含めて、「地学」をテーマに参加者とディスカッションを行った。地学とは、地球科学ともいう。地球を対象とする自然科学の総称であり、学問分野としては、自然地理学、地質学、鉱物学、地球物理学、海洋学そして気象学などとして発達しており広義である。

当分科会は、地球という無指向性のテーマの為、水循環を土台として様々な質問からディスカッションを進めた。話題のスタートは降り注ぐ雨の行方である。日本の平均雨量は約 1,700mm、その内 1/3 が蒸発し、1/3 が大地に浸み込む。そして、残りの 1/3 が流れていくのである。蒸発した水が雲をつくり雨が降るが、雨の降るメカニズムは、実は雲の 2 層構造にある。2 層構造でなければ、雨は降らない（一般的な例で）という気象学から話題が始まった。



参加者からの意見として、リニアモーターカーなどトンネル工事の際に、周辺の集落で地下水の影響があるのか、また、北陸新幹線建設に伴って金属物を含んだ残土から有害物質が出ないのか、そもそも残土はどこで処理されるのかなど、具体的な質問にも及んだ。地下水に関する質問に対して、塩坂氏からの確かな回答が出されるとともに、地質由来の危険物等の考え方について改めて学べた。

今後、私たち自然体験活動家が地学を知り、体験を通じて子どもたちに教えるためのエッセンスについて話題が及んだ。岡氏は中山間で活動を実践しており、由良川上流にあたる。そこでの活動に川を利用しているが、実は周辺にはマンガンが溶出しているようで、環境の面から大丈夫なのかという不安もご意見頂いた。地下水にはマンガンが含有することも多いが、建設残土などはブルーシートなどをかけて雨水による溶出を防げば問題ないが、工事によってはどうしても手薄になることもあって、地元の人にはしっかり見ていて欲しいという塩坂氏からの回答があった。

最後に、自然体験活動家が地学を知って今後どのように進めるといいかとの問いに、塩坂氏は、地学においても環境教育がとても重要であり、今後は「Earth Repair」の観点からも、取り組んでいきたいと発言があった。私たちは、生物環境や自然の営みなどと地学との関係をさらに深く知ること、今後より理解が深まる環境教育につながるのだろうと理解した。

## 分科会 1-2 「地域をリペア」

記録者：田村 明

### ゲストスピーカー紹介

#### ・森のなりわい研究所 伊東栄一先生

16 年前に大学を退職して、皆さんと森や自然についての気付きを作っていくことが私の仕事。環境教育が主な仕事だが田舎では多様な仕事をしていくことが大切だと思っている。

#### ・根尾開発 小澤社長

会社は創業 50 年と歴史は浅いが、非常に広い森林を保有している。林業は次世代のためにしっかり守っていく仕事。鹿の数が地域の人口を超える中で獣害対策も大切な仕事。

地域が良くなれば森もよくなると、山の空間利用を進め、広葉樹の活用のために、異業種の人と繋がり、いろいろな人を山に来てもらう活動を行っている。息子が BMX でテレビに出るなどして、根尾を自転車で活性化ができないかとも思っている。

#### ・古川林業 古川専務

代々15代続き江戸時代から林業を生業としてきた。郡上市美並町などで広い森林を所有。昨年林業遺産として登録された。森林はもちろん、所有山林での E バイク利用にチャレンジするなどいろいろな試みを行っている。PTA の仕事を通じて子供たちが森に触れ合わせ、子供と森を結ぶ試みを行っている。

#### ・グリーンウッド自然体験教育センター 辻代表理事

長野県の南部に位置する、人口 1,600 人の限界集落泰阜村で、「こども山賊キャンプ」を首都圏を中心に年間約 1,200 名もの子供たちを集め自然体験活動を行っている。また、山村留学として子供預かり村の学校に通わせるなど雇用を確保し、村の一大産業として運営している。

#### ・お客様のこころ研究所 田村 明(分科会コーディネーター担当)

以前勤めていた放送局の経営立て直しのために「マーケティング」を学ばせてもらったことが、大学での研究テーマであり専門領域になった。

この分科会では、森の専門家・教育と村興しの専門家・マーケティングの専門家の 5 人が混ざり合うことでどんな化学反応が起こるのか非常に楽しみにしている。

長野県はヒノキを植えたいが寒くてカラ松を植えるしかなく、30 年以上前長野の森林研究所はカラ松の活用に大変悩んでいた。しかし、今となるとヒノキや杉の真っ暗な森よりもカラ松林の明るい森のほうがキャンプ場などの観光資源と見ると圧倒的に良く、視点によって大きく価値は変わってくる。この様にニーズに寄り添うというよりは、ニーズを作り新しいマーケットを作っていくことに大変興味を持っている。

林業経営者としては木材を高く売る方法を考えていかなければいけない。いろいろな人を森に招き新しい取引を試みている。一番良くないのは「昔は良かった」だけで何も変えようとしないことだ。栃の木の大木を切り、それでマグカップを作り、その木が育った森で栃の木のマグカップでコーヒーを飲むというツアーを企画するなど、森に人が来て楽しんでもらうことをやっている。木の価値は黙っているとどんどん下がり、燃やしてしまえということになりかねない。森林資源は一度失ってしまうと簡単に取り戻せない。山の資源は木を切ることだけではないので、それらの資源の活用を考えている。

長野県南部はカラ松ではなく杉林だが、山村留学などの面では、間伐された木材を薪として割ってストーブや風呂などに使うことは教育的には大変有効だ。陶芸でも大量の薪を必要とする。ガスや石油などではなく、目に見える木材を使うことで自分たちの生活 1 年間にどれだけの薪を森から供給してもらい持続させることを考えさせることは子供たちにとって未来を考えさせる重要な学びの価値がある。

田舎に子供たちが来て、森で遊び、川がきれい、星空が美しい、年寄りたちの仕事に感動してくれる。村に活



気が出るとUターンで若者が村に戻ってきて過疎の村の保育園で初めて待機児童が出てしまった。住民たちは自分たちの地域や自然の価値に気づき、この価値を自分たちの地域の子供のためにきちんと伝えなければいけないと意識が変わり、村の行政も大きく考え方を変えた。小さな村で何も出来ないのではなく、逆転の発想で小さな村だから何でもできると実行することが大切だ。

森や地域の活性化のためにいろいろな成功例を学び実践することが必要であり、各地で走り出した豪華観光列車は木材が価値を生んでいるとデザイナーの水戸岡氏は語っている。また、オリンピックのメイン会場国立競技場は隈研吾氏によって日本各地の木材がふんだんに使用され世界から注目され、木の価値は確実に上がっている。この森林文化アカデミーの校舎の木材を素晴らしいと感じるのか否かを客観的に考え、森や木の価値をこの分科会に参加した人たちが感じてくれると嬉しい。

## 分科会2-1「心と体をリペア」—元気な身体が元気な活動を作る

### ■「つぼマッサージ、鍼灸」

講師 長谷川吾朗さん(一般社団法人「国際臨床鍼灸研究会」代表)

基本的な針や灸などの治療のポイントの話、脈拍に身体の不調が現れることを教えてもらい脈の見方を聞きました。実際に全員が脈を診ていただきながら健康相談に移って行きました。各自にあった適切なツボを押さえてもらい、自分でできる方法や他の方のツボの見つけ方も伝えていただけました。次に百草によるお灸を症状に合わせたツボを教えてもらい自分でお灸をしました。人生初めての体験の方も多く、楽しく和気あいあいの中改めて生活改善などのアドバイスもいただき、身体のリペアの大切さを感じる時間となりました。

記録者:北川 健司



### ■「座禅ワークショップ」

講師:高橋 定佑さん(永昌院副住職)

時間:14:30~15:45

場所:風の円居(かぜのまとい)

参加者:8名

<当日の様子>

気さくな雰囲気入りやすい高橋さんのイントロからスタート。

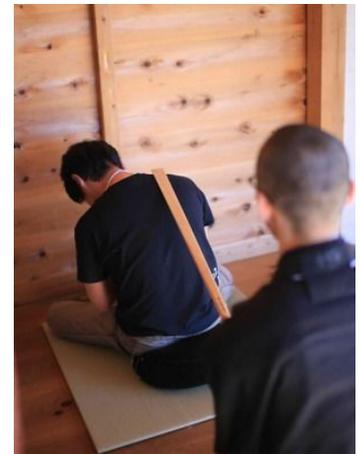
禅寺の宗派やそれぞれの禅に対する見方などの説明を聞いてから、座禅の目指すものなどについての話を聞いた。その後、足をマッサージしながら足の組み方や姿勢を説明。体が硬い人でも、心配なく、無理なく、やることの大切さを説明してくれたおかげでみんな気軽に座禅に入ることができた。

一通りの説明が終わると早速座禅。線香1本分の座禅を体験した。

警策(たたく木の平たい棒)で叩かれる経験をしたい希望者のみ叩いてもらった。

一般的には座禅というと「厳しい」「難しい」というイメージがあるが、今回の体験を通して「誰でも気軽に体験できる」「特別ではないもの」を実感することができた。

記録者:萩原ナバ裕作



### ■「玉串作りワークショップ」

講師:五十嵐 義郎 さん(神職アーティスト)

時間:15:30~16:30

場所:森の情報センター

参加者:6名

<当日の様子>

まずは資料をもとに「玉串」の歴史や「神社」のことについての説明を受ける。

とにかく知っているようで知らないことだらけなので、参加者からの質問も非常に多かった。(なかなか進まないくらい面白い話、疑問に思うことが多かった)

一通りの説明を受けると、いよいよ森へ。森の中で「サカキ」の木を探るところからスタート。いろいろある木の中でサカキを探すために、葉っぱを見比べたり、樹皮を見比べたりしてとても良い自然観察の時間だった。

理想的な形のサカキの枝を確実に収穫したあと、紙垂を作るために情報センターへ。

半紙を使って紙垂を作り、先ほど採集したサカキの枝につけ、最後は神社でのお供えとお祈りの作法を教えてくださいました。

参加者の一人が座禅ワークショップの高橋さんで、日本の神社とお寺の共有部分や異なる部分について話が盛り上がりつつあった。

印象としては、このプログラムは非常にポテンシャルが高く、今後ツアーのプログラムとして活用できるネタがたくさんあると実感した。近い将来、試行プログラムとして実践してみたい。

記録者:萩原ナバ裕作



## 分科会2-2「自然との距離をリペア ～ センス・オブ・ワンダーと焚き火マンダラ ～」(体験)

※裏テーマ:「行き当たりバッチリ」

記録者:坂本 均

実施時間 16時～17時30分

参加人数 14名(女性3名、男性11名)※内小学生1名

実施者 コーディネーター 坂本 均(ノーム自然環境教育事務所/福井県大野市)

講師① 原 令子(岐阜県シェアリングネイチャーゲーム協会)

講師② 大西琢也(火起こし:郡上市石徹白在住)

### 実施概要

#### ■「焚き火ゴ」: 原令子氏

- ①ネイチャーゲームのビンゴゲームを基本に、「焚き火できそうな材」を拾った項目をグループでシェアしながら集めてくる。ビンゴ項目は……
- よく燃えるモノ
  - 燃えにくいモノ
  - 湿った匂い
  - かわいた音
  - ザラザラした枝
  - きのこ(コケ)のついた木
  - 木の実
  - 煙の匂い
  - 焚火の色
- ※煙の臭いや炊き火の色は「焚き火」が始まってからの項目。

- ②各グループが集めたものを全員でシェア

真ん中に黒布を置き、グループごとに拾った材を置いて解説・シェア

#### 【感想】

地面にへばりついて臭いを嗅いだり、拾ったものをメンバー間で「どう?」とやり取りしたりとかなり材を集める時間に集中していたように見えた。シェアする際にも、コダワリなども確認できた。全体的には、その先にある「焚き火」をイメージしながらの材集めなので良かったのではないかと思った。

#### ■「焚き火マンダラ」: 大西琢也氏

- ①各グループごとに「炊き火ゴ」でシェアしたものを真ん中に、焚き火台を設置。拾ってきた材を中心にメンバー内でやり取りしながらテーマを決めて「焚き火」の組み立て。
- ②火起こし(ひおこし)の大西さんから「火」の起源など解説。グループが組み立てたものを順に回ってテーマの説明とともにシェアする。大西さんより「焚き火マンダラ」ノートを見ながら、組み立て方法など解説。また、焚き火は最後の灰の処理までを念頭にするので、材を集める際にも「灰」になることを考えながら集めるといいなどの説明。
- ③火起こしの儀式からの分火。大西さんの火起こしで生まれた「小さな火」を、各グループに分火。
- ④焚き火を囲んで暖まる。

#### ■「ふりかえり」: 原令子氏

- ①A5サイズのボール紙に「表/焚き火を囲んで一言」「裏/全体体験しての感想」
- ②集めて表に書いた一言をつなげて朗読する(詩になるように)

#### ■終了・撤収

#### 【一言&感想】

- ・火は循環する。灰になることを考えて森に入りたい
- ・短時間で火との距離間が近くなり、また、今大切にしていすべき方向までを感じました。暖かった。
- ・たのしかった。いっぱいたきぎをひろえてたのしかった。
- ・短い時間でした。短い時間で共有する感覚・感情がありました。ならば日常でも短い時間があれば、人と人はもっと共有・共感できるのでは?今日の火をもちかえろう。今日の火がみんなにもとりますようにと祈りつつ。
- ・火を起こしてみたいと思った。火をいただきます。火のあとまで意識する。
- ・身近にある素朴な素材でもいろいろな事を感じることができる。そしてそれらを火にする事につながるし、生きる事につながる。火起こしからちゃんと火を見つめることは(火や自然は)大事だし尊い
- ・火は人を寄せる力がある。大垣公園の七輪火起こしも人気がある。
- ・始まりと終わり。生と死。循環。
- ・火をいただくことを大切に考えてみたい
- ・焚き火ゴ面白かったです。野外で子どもの仕事「青空自主保育」の保育者なのでやってみたい。それと共に火への想い、つきあいをふり返させられました。1人のキャンプの時の火付けはまだしも、いつも追われるように火をつけご飯をつくるので「想う」ことまで頭になかったので全くその通りだと思いました。ありがとうございます

した。

- ・自然物を使っでの火起こし(始)に感動です。自分でもやってみたい。
- ・人によって感じ方が違うのが面白い。

### 【体験の流れ】



- ・ アイスブレイク数当て                      焚き火ゴ説明                      項目をビンゴカードに記載
- ・ 出来上がったビンゴカードを持って林の中へ Go!    これどう?                      こっちにはこれあるよ!
- ・ においは?                                      どれどれ?                                      あったぞ～
- ・ 集めたものをシェア    これは……!あつたあつた!
- ・    な～るほど燃えそうかな?                      大西さんの「焚き火マンダラ」開始                      各グループ思い思いに組み立て
- ・ ここはこうで!どう?    壁いるな～                                      出来上がり!
- ・ 組み立て風景                      出来上がった組み立てをコダワリの説明                      大西さんの火起こし開始
- ・ 種火出来上がり                                      各グループへの分火                                      各グループの焚き火コンセプト
- ・ しばし焚き火で暖を取りつつ交流                      焚き火マンダラの説明                      材の組み方にもきちんと名前があります。
- ・ 炊き火を前に一言&感想                      みんなの一言をつなげて詩の朗読                      最後は灰に……



### 分科会2-3「木のモノのリペア」を考える

ゲストスピーカー 森林たくみ塾 佃正壽さん

森林たくみ塾創設者、ひだの未来の森づくりネットワーク常任幹事。

1974年オークヴィレッジ創設。

2001年岐阜県立森林文化アカデミー設立に参画。

2002年ひだ きよみ自然館副館長。

1997年～2007年(公社)日本環境教育フォーラム/自然学校指導者養成講座担当。

2000年～2003年文部省(現・文部科学省)主催「野外教育企画担当者セミナー」講師。

2008年～2009年岐阜県林政部「森林づくりスクール」企画構成および講師。

2013年～現在 木材加工用機械作業主任者技能講習(労働安全衛生法による国家資格)・講師。



まずは机の上に並んだたくさんの木のかげらの中から、お気に入りの木の一つを選んでいただきました。木の名前なんて気にしないでいいんです。色、重さなどそれぞれの違いを感じ取ってもらいました。

今日のテーマ Repair の頭文字「R」さがしからお話が始まります。法制化された3R といえば

Reduce リデュース:減らす

Reuse リユース:繰り返し使う

Recycle リサイクル:再資源化する

更にRを探してみると、ちょっと聞き慣れない「Refuse」リフューズ、これはゴミになるものを拒否すること。レジ袋の拒否なんて言うのがこれに当たります。しかしレジ袋を使ってもいいんです。意識することが大切なんだとおっしゃっていました。

そしてもう一つのR(5R)が「Repair」リペア。壊れても直せるものは修理して使うことをいいます。

さて、大切に使っていた漆塗りのお椀にヒビが入ってしまいました。これってどうしたらいい？

「エポキシ系の接着剤で埋める。」「削り取ってお皿にする。」「燃料として燃やす。」「削って別の木を埋める。」「和紙を張って柿渋を塗る。」etc

そもそもこれって壊れてるの？キャンディを入れるにはちょうどいいと佃さんはおっしゃいます。

木の製品は、少しでも傷があると流通に乗りません。でも本当にダメなの？というしつこさが大切です。割れたお椀も小刀一本あれば誰でも修理できます。木のモノはそれに応えられる素質を持っているのです。

規格から外れたものを受け入れる(受容する)こと、それを認める(寛容する)ことが、自然「じねん」の精神です。あるがまま。自ずから然り、自然体がいいのです。

ここでもう一度皆さんに、木のかけらを選んでもらいました。さて、どんな材を選んだんでしょうか？



最後に 6 つ目のRをご紹介いただきました。「Renovation」古いお家のリノベーション(修理・改装)として使われますが、革新・元気回復という意味も持っています。

「森を元気にしたい」そのために自然の材料に付加価値を与える。もうちょっと面白がれないかな？という気持ちを持つ、そうすると森に対する見方が変わる。これこそリノベーションです。そういう価値観を分かち合える小さな経済圏で勝負する。

コーディネーターの私が実践するグリーンウッドワークがまさしくリノベーションなんだなと実感しました。

参加者からの「森に対する価値観を変えるためには、ど

んな教育が必要か？」との問いに、

「木工の敷居を下げること」「昔はどの家にも大工道具があった。日曜大工から始めましょう。」

と締めくくられました。

記録:コーディネーター担当 NPO 法人グリーンウッドワーク協会 小野敦

## アンケート結果

<開催時期>について

1 最適 [4] 2 適切 [9] 3 不適切 [1] (ちょっと寒い。桜の咲くころがいい)

ご希望の<開催日>

1 平日 [8]  
2 休日 [5] (・もっと多くの人に参加できる。・日時が早く分かれば平日でも休みがとれる)  
3 どちらでもいい [1]

ご希望の<開催場所>

1 森林文化アカデミー [13] 2 その他 [1] (メディアコスモス・東濃でも)

<施設>について

1 最適 [10] 2 適切 [4] 3 不適切 [0]

### ■基調講演

1 非常に良かった [10] 2 良かった [4] 3 どちらともいえない [0] 4 良くなかった [0]  
(・リペアできた。・地質に興味があったので興味深く聴いた。ヒートアイランド対策、ブナ林復元、地下ダムなどとても面白く深く学びたいと思った。・山や川を見る見方が変わった。)

### ■まざりば

1-1(地球 R) 1 非常に良かった [4] 2 良かった [2] 3 どちらともいえない [0] 4 良くなかった [0]  
(・樹海の話をもっと聞きたかった。・司会の話が長かったので、もっとゲストスピーカーの話を引き出してほしかった。・地質の話、地球の歴史を考えるきっかけになった。)

1-2(地域 R) 1 非常に良かった [0] 2 良かった [1] 3 どちらともいえない [0] 4 良くなかった [0]

1(不明) 1 非常に良かった [1] 2 良かった [1] 3 どちらともいえない [0] 4 良くなかった [0]

2-1(心身 R) 1 非常に良かった [4] 2 良かった [1] 3 どちらともいえない [0] 4 良くなかった [0]  
(神道×仏教が面白かった。・お灸までできてよかった。)

2-2(自然距離 R) 1 非常に良かった [2] 2 良かった [1] 3 どちらともいえない [1] 4 良くなかった [0]

(短い時間でも人は共感、共有できると思った。ここでいただいた火を日常に持ち帰りたい。・火おこしのネイチャーゲームは体験型でとてもよかった。)

2-3 1 非常に良かった [2] 2 良かった [3] 3 どちらともいえない [1] 4 良くなかった [0]

<全体の評価と感想>

- ・どの講座も心惹かれたので、絞り込むのが大変だった。自然をリペアしようと向かうと人との関係もリペアされると思った。素晴らしいテーマだったと思う。
- ・人と森をつなげてどう継続していくか、という根尾さんの話が心に残った。人と木のライフサイクルの違いがある中で継続していく苦労話の一端が聞けて良かった。
- ・楽しかった。毎年楽しみにしている。
- ・コロナの影響で知人のワークショップがほとんどキャンセルになりとても残念だった。参加人数は少なかったがとても活発な感じでよかった。バーベキュー、豚汁、うどんすべておいしかった。
- ・塩坂さんの話は大変興味深くおもしろかった。今後に生かすヒントをもらった。
- ・PR、チラシ欲しい。
- ・多数の方々の話が聞けて良かった。座禅ができてびっくりした。
- ・短い時間だったがとても楽しめた。
- ・分野のちがう本気も人との交流、テーマもよかった。
- ・初めて参加させてもらった。私の心のリペアによかった。心穏やかに参加できた。スタッフの皆様、準備等々ありがとうございました。

<次回への要望>

- ・いろいろな活動をされている方とすべて交流できないのが残念。パンフレットを置いていない現場のを知りたいので参加者の所属名等一覧を掲示してほしい。
- ・ツリークライミング
- ・もうすこしアウトドア系希望
- ・広い方々にアピールしたい。
- ・体験を増やしてもらえたらうれしい。

## 後記

今回のテーマは「リペア」。使い捨ての習慣が蔓延しそうな世の中で、モノや心、身体など大切にしたい事、気づいてほしいこといろいろあるね、という話題からテーマが決まってきました。また、自然体験活動の指導者のつどいとして開催してきたこの催しも、回を重ねる中「それだけじゃないよね」という雰囲気を感じてきました。そこで今回から、準備会で出た「まざりば」という言葉に置き換えて、「川と山のぎふ まざりば」というタイトルに変えて実施しました。

当日は新型ウィルスの嵐が吹き荒れ、各地の催しが中止されている中の実施でした。ウィルス感染の恐れから出展者、参加者にもキャンセルが多々も多くなか、川に学ぶ体験活動協議会役員や岐阜県立森林文化アカデミーとも開催の可否を確認しながら、最終的に開催の決断をいたしました。組織や世相を考えると中止するのが安全策であることは承知していますが、参加者判断での出欠という形としました。

催しは例年に変わることなく、みなさんの積極的な参加で多くの交流をすることができました。特に森林文化アカデミーの学生のかかわりが積極的で強い力を感じました。各まざりばの報告にあるように、岐阜県の人の力を今回も感じる時間でした。催しが終わった今はまだ新型ウィルスの猛威が収まらない状況ではありますが、初夏を迎えるころには終息してまた人々が川や森や山で安心して活動時間が戻ってくると思います。これからもみんなでつどい、語り合い、伝えていくことが盛んになっていくよう活動していきます。

今回は特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会の「RAC 地域ミーティング中部」や新しくできる「森林総合教育センターmorinos」試行プログラム基盤強化支援事業とも連携して開催しました。

川と山のぎふ自然体験活動の集い実行委員会  
代表 北川健司(特定非営利活動法人エヌエスネット)

**第 16 回 川と山のぎふ自然体験活動の集い報告書**

発行 2020 年 3 月 1 日

山と川のぎふ自然体験活動の集い実行委員会  
事務局

編集責任者 高屋 良平